

県オリジナルブドウ品種「あづましずく」の発芽促進剤 による労力分散技術の開発

福島県農業センター 果樹研究所栽培科

1 部門名

果樹－ブドウ－生育調整

2 担当者

湯田美菜子・額田光彦・阿部和博・斎藤祐一

3 要旨

県オリジナルブドウ品種「あづましずく」を盆需要期に安定出荷できる生育促進技術の確立を目的に試験を行った。

(1)新短梢栽培の「あづましずく」に 2011年12月28日の自発休眠期にシアナミド液剤を結果母枝に散布し、芽袋被覆期間は樹液流動開始直後から展葉2～3葉期までの2012年3月23日～5月1日までとした。芽袋は0.1mm厚、150×300mmのポリエチレン袋を使用した。

(2)発芽期は芽袋＋シアナミド液剤処理＞シアナミド液剤処理＞芽袋＞無処理の順で早く、芽袋＋シアナミド液剤処理区は無処理区に比べて10日早かった(表1)。

(3)収穫盛期はシアナミド処理＋芽袋区は無処理区に比べて6日早かった(表1)。シアナミド液剤処理では5日前進し、花穂整形やジベレリン処理時期の労力分散に有効である。

(4)果実品質は、果房重が、シアナミド液剤処理＋芽袋(以下、シア＋芽袋)および芽袋は無処理区に対して、有意に小さかった。これは芽袋を被覆したことによる芽や葉への障害が原因である(表2)。

(5)以上のことから、シアナミド液剤の自発休眠期処理のみでも開花盛期は無処理より5日早くなるため、花穂整形やジベレリン処理時期の労力分散に有効である。

表1 各処理により生育の違い(新短梢一文字型)

処理区	発芽期	展葉期	開花始	開花盛	着色開始	収穫盛
芽袋＋シアナミド液剤処理	4/21	4/26	6/4	6/11	7/21	8/20
シアナミド液剤処理	4/30	5/4	6/8	6/12	7/22	8/21
芽袋	4/24	4/28	6/5	6/10	7/23	8/23
無処理	5/1	5/6	6/10	6/17	7/24	8/23

表2 各処理による品質の差異(新短梢一文字型樹)

処理区	果房重(g)	1粒重(g)	カーチャート指数	RM示度	酒石酸(%)	糖酸比
シアナミド液剤処理＋芽袋被覆	315.0 a	11.2	8.9 a	18.3 a	0.57 a	32.5 a
シアナミド液剤処理	382.8 ab	11.5	10.0 c	19.9 b	0.49 b	41.1 b
芽袋被覆	310.9 a	11.3	9.0 ab	20.4 bc	0.46 b	44.5 bc
無処理	402.0 b	11.9	9.6 bc	21.3 c	0.45 b	48.0 c
F値	5.1	0.5	11.0	18.6	17.7	22.5
分散分析	**	ns	**	**	**	**

多重比較はTukey法により異符号間で5%水準で有意性あり
分散分析*は5%の危険率で有意差あり、nsは有意差なし。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～24年度
- (2) 研究課題名 県オリジナルブドウ品種「あづましずく」の省力・高品質安定生産技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (終了参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度～23年度センター試験成績概要

表1 各処理により生育の違い(新短梢一文字型)

処理区	発芽期	展葉期	開花始	開花盛	着色開始	収穫盛
芽袋+シアナミド液剤処理	4/21	4/26	6/4	6/11	7/21	8/20
シアナミド液剤処理	4/30	5/4	6/8	6/12	7/22	8/21
芽袋	4/24	4/28	6/5	6/10	7/23	8/23
無処理	5/1	5/6	6/10	6/17	7/24	8/23

表2 各処理による品質の差異(新短梢一文字型樹)

処理区	果房重 (g)	1粒重 (g)	カラーチャート指数	RM示度	酒石酸(%)	糖酸比
シアナミド液剤処理＋芽袋被覆	315.0 a	11.2	8.9 a	18.3 a	0.57 a	32.5 a
シアナミド液剤処理	382.8 ab	11.5	10.0 c	19.9 b	0.49 b	41.1 b
芽袋被覆	310.9 a	11.3	9.0 ab	20.4 bc	0.46 b	44.5 bc
無処理	402.0 b	11.9	9.6 bc	21.3 c	0.45 b	48.0 c
F値	5.1	0.5	11.0	18.6	17.7	22.5
分散分析	**	ns	**	**	**	**

多重比較はTukey法により異符号間で5%水準で有意性あり
分散分析*は5%の危険率で有意差あり、nsは有意差なし。